

平成30年3月1日

保護者のみなさまへ

平成29年度川西南中学校学校関係者評価および提言について

少しずつ春の気配を感じる日が多くなってまいりました。保護者の皆様方には、日頃より本校教育活動に、ご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、学校教育アンケートの調査結果を経年比較し、分析・検討したものを、学校評議員会としての学校評価・提言といたします。

川西市立川西南中学校評議員会

代表	大矢根 秀明	(PTA顧問)
	吉田 雅紀	(加茂小校区)
	田中 里香	(久代小校区)
	後久 伸子	(現PTA)
	菰口 美香	(現PTA)

1、アンケート内容と傾向分析について

「目指す生徒像」「学習面について」「学校規律について」のように三つの大項目に分け、それぞれに小項目を設け、A(大いに当てはまる)B(当てはまる)C(あまり当てはまらない)D(全く当てはまらない)の4段階評価を実施し、それを点数化することにより客観的な分析を行い、学校の現状を知る方法としました。調査対象は三者(教職員、保護者、生徒)で、生徒につきましては、昨年度から調査を開始しましたので、経年比較は2年分となります。

教職員自己評価は18項目中、良好な項目が9項目、課題のある項目が2項目となっています。保護者評価は18項目中、良好な項目が6項目、課題のある項目が1項目となっています。生徒評価は18項目中、良好な項目が12項目、課題のある項目が1項目となっています。

三者の評価に共通する項目を見てみますと、良好な項目が「あたたかい、思いやり」「頭髪、服装が整っている」で、課題のある項目が「あきらめず、粘り強く」「家庭で勉強する習慣がついている」となっています。

経年比較で見ますと、教職員自己評価は下降傾向が「あいさつをよくする」で、学校規律についてはほとんど上昇傾向です。保護者評価は「南中生は学校で一生懸命勉強している」が下降傾向で、学校規律は教職員と同様に上昇傾向です。生徒評価は上昇傾向が「先生はいじめのない学校にしようとしてくれている」で、下降傾向は「先生はわかりやすい授業をしてくれている」となっています。

以上のような傾向を総括いたしますと、改善されてきた点としては「学校規律について」といえます。改善・努力していく点としては、生徒においては「家庭学習の充実」、教職員においては「授業改善」を求められているといえます。

今後は、生徒評価の「学校に行くことが楽しい」という項目が上昇していくような学校運営を推進していきたいと考えます。

2、各項目分析について

(1)めざす生徒像

「あきらめず、粘り強く」の評価は、教職員・保護者・生徒の三者同様に、他の項目に比べて低いポイントになっていることから、今後も継続して取り組む必要があります。

(2)学習面について

家庭学習の習慣が今年度も低い評価となっています。この項目は学校教育アンケートすべての項目の中でもとりわけ低く、生徒自身も最も低い自己評価であることから、教職員の授業改善と家庭の支援をもとに学校と家庭がより連携して検討していく課題と言えます。

(3)学校規律について

生徒・保護者の評価は、概ね良好と判断できます。教職員評価の経年変化は、2年連続で多数の教職員が異動したこともあります。新たな視点での評価解釈をする必要もあります。

3、全国学力・学習状況調査（平成29年4月18日実施）について(参考)

国語A（知識）、国語B（活用）、数学A（知識）、数学B（活用）、生徒質問紙による学習状況調査の5項目において実施されました。

学力調査は、4項目すべてにおいて、全国平均、兵庫県平均を上回っていました。

生徒質問紙による学習状況の特徴として、良い点は「1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の2項目が高いポイントでした。課題のある点は「家で、学校の授業の復習をしていますか」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の4項目が低いポイントでした。

以上1～3に述べましたとおり、学校教育アンケートによる学校評価と全国学力・学習状況調査などの分析・検討をもとに、今後の課題設定を明確にし、具体的な取り組みを進めていきたいと考えています。なお、ホームページにおいても後日公開いたしますので、どうぞ閲覧してください。